

# 平成30年度第2回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 平成31年3月25日（月）  
午前10時30分から午前11時40分まで
- 2 場所 本庁舎「3階会議室」
- 3 出席者
  - (1) 出席構成員  
天童市長 山本信治                      教育長 相澤一彦  
教育委員 井上正信                      教育委員 本田孝之  
教育委員 村山晴香                      教育委員 松村昌子
  - (2) 説明のため出席した者の職氏名  
教育次長 大内淳一                      学校給食センター所長 高橋清見  
学校教育課長 戸田一彦                      生涯学習課長 村山裕二  
教育総務課課長補佐兼庶務係長 横倉文男
  - (3) 事務局職員の職氏名  
総務部長 遠藤 浩                      総務課長 湯村耕司  
総務課課長補佐兼行政係長 佐藤 貴宏  
総務課行政係主査 丸子正彦  
総務課主事 佐藤 穂乃佳
- 4 議事録署名員  
教育長 相澤一彦
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 協議・調整事項  
ア 教育大綱に基づく平成31年度の教育方針について  
イ 「天童市立中学校における部活動の在り方に関する方針」について  
ウ その他
  - (4) 閉会
- 6 会議の内容

発言者	発言内容
佐藤課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 相澤教育長あいさつ</p>
山本市長	<p>3 協議・調整事項</p> <p>それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長にお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>はい。</p> <p>(1) 教育大綱に基づく平成31年度の教育方針について</p>
山本市長	<p>最初に、「教育大綱に基づく平成31年度の教育方針について」説明を求めます。</p>
相澤教育長	<p>(教育大綱に基づく平成31年度の教育方針について説明)</p>
山本市長	<p>ただ今教育長から説明がありましたが、皆様から御意見や御質問がありましたらお願いします。</p> <p>(意見なし)</p> <p>後ほど手を挙げていただいても結構ですので、次に進めさせていただきます。</p> <p>(2) 「天童市立中学校における部活動の在り方に関する方針」について</p> <p>「天童市立中学校における部活動の在り方に関する方針」</p>

戸田学校教育課長	<p>について説明をお願いします。</p> <p>（「天童市立中学校における部活動の在り方に関する方針」について説明）</p>
山本市長	<p>ただ今説明がありましたが、皆様の方から御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
井上委員	<p>教育長から詳しく御説明がございましたが、教育界が大きく変わろうとしているときに、天童市が果敢に取り組んでいる姿勢が非常に良いと、続けて行ってほしいと思いました。それだけでなく、教育の流行の提供の部分にも力を入れていたださるということで、教育の両輪がうまく走っているという印象を受けました。質問とお願いなのですが、先日、来年度の人事の資料をいただきましたが、初任者が14名おりました。かつてないほど多いのではないかと感じております。先ほどの教育長の話の中で、矜持の話がありました。寛容さと指導力が必要だというお話でしたが、同感でございます。教員の研修には基本研修というのがございますが、最も先生方の指導力がアップするのは初任者研修だと思います。初任者研修をしっかりしていかないと、40代になってからその先生の指導力、教育に対する構えなどを変えていくのは難しくなります。基本研修の中でも一番大切なのは学校の校内研修ですよね。天童市が工夫する部分について、本市の課題点も踏まえてやっていただきたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>大変大事な御指摘をいただいたと思います。今年は初任者が14名、事務職員と養護教諭を含めて18名でしょうか。県内全体で初任者が多い傾向にあります。しっかりとした研修をし、育てていくというのが大事です。職務の在り方という点で、技能だけを教えるのではない研修をしなければならないと思ったところです。市でも工夫をして、研修を追加しまして、私が教師人生の歩み方の話をさせていただきました。教育の大切さ、すばらしさを感じさせるようなことをしていかなければならないと思っています。</p>
山本市長	<p>初任者が18名というのは多いのですか。</p>

戸田学校教育課長	<p>今年は10名でしたので、例年増えている傾向にあります。</p>
山本市長	<p>他にございませんか。</p>
松村委員	<p>今の意見に引き続き。年代によって考え方が違うと感じます。日常生活、家庭の在り方、共働き、家庭制度の崩壊などがあって、それぞれの年代間で溝ができてきたような気がしています。その中で新しい先生方が入ってきて教えるに当たって、研修や人生の哲学的な学びを与えるのは大事ですが、同じことが保護者にも言えると思います。特に部活動は、何十年も前の話ですが、規則がきちんと整備されていなかったもので、保護者達が自由に、自分たちの思いのままやっていた。このようにしっかりと整備していただいたというのは非常にうれしいと思います。保護者の方たちへ、部活動の在り方、これからの世の中の在り方を学ぶ機会をPTA活動の中で与えていかないと、共同体として子育てができないような気がしています。その機会をこれから作っていただけたらいいのではないかと思います。</p>
戸田学校教育課長	<p>ありがとうございます。私が教員として働いているときに、保護者や地域の方の中にはいろんな種類の思いがあるということを感じておりました。私は教員としてその思いをお聞きするのですが、保護者同士や地域の方と保護者が話し合う場は少なかったように思います。互いの思いを交流する機会を設ける大切さを感じているところですので、校長会等を通じて、学校教育課からも広めていきたいと感じたところです。</p>
山本市長	<p>他にございませんか。</p>
本田委員	<p>資料6ページに部活動の在り方の指針を出していただきましたが、これに近い部活動というのはほとんどないと思います。保護者の方にこういう指針でこれから進むんだということを、丁寧に時間をかけて説明することで、これからの部活やスポーツの在り方に大きく変化をもたらすんじゃないか</p>

	<p>なと思います。スポーツはいくらやってもいいんじゃないかと考える人もいるので、親に対しても理解を得ないと、せっかくの部活動がぎくしゃくして、子どもたちが主体なのか、何が主体なのか分からなくなってしまいます。「この方針でお願いします。」と言われてもうまくいくことはないんだと思いますので、やり方を考えていただきたいというのが一つです。それから、大会も月に2回という趣旨が出ていますけれども、スキーなんかは冬の2か月くらいしか大会がないわけですよね。それを同じくくりの中で扱うのかと。季節的な問題はないのかなと。考えうる限りいろんな選択をお願いできればと思います。</p>
山本市長	<p>あくまでもガイドラインなんですよ。しぼりはないと。</p>
戸田学校教育課長	<p>そうです。もちろん方針として、ガイドラインとしてお示しするわけなんですけど、子どもたちの負担にならないようにということです。土日の部活動の影響で、月曜日に元気のない子どもたちというのが話題になっています。本田委員からもありましたように、子どもたちの負担について、保護者の方々に伝えて理解を得ていくことは大事だと思っていますので、その意味で部活動の運営委員会を各学校に設置することを義務付けているところでした。また、この方針を各競技団体の代表の方々が集まるような機会に知らせていく必要があるのかなとも思っています。拘束力はないわけですが、子どもたちが置かれている現状や、教員の時間外勤務について一週間に69時間という調査結果もありますので、そういうことがないようにしていきたいという思いがあります。次に、季節的なものについてですが、スキーについては、実際ある中学校の子どもが全国大会まで行ったことがあります。スキーの大会というのは一週間がかりで行くんですが、合わせて三週間遠征をしていました。どこの学校にもスキー部はないのですが、大会に行くには教員の引率が必要だと言われるものですから、三週間だれか教員を付けないといけないということで、今年は、部活動指導員は引率ができるということにしておりますので、三週間のうち二週間は部活動指導員で引率をすることができました。ですので、一週間だけ教頭先生が引率してくださったんですが、それでも一週間教頭がいな</p>

	<p>いということが発生してしまったわけなんです。学校運営上に係る負担等もありますので、何がいいのかということは一概にここでは結論を出せないものですから、いろんなことを考えながら、部活動指導員等を活用する方法なども考慮しながら、学校がスムーズに運営できるように、各方面から御理解いただけるように進めていきたいと思っていますところです。</p>
山本市長	<p>続いてございませんか。</p>
本田委員	<p>英検に変わるものとしてGTECを全員に受けさせていただけるということについて、全員受けるに当たって、順位を公表したりするのかなど。小学校から英語の授業を受けるという中で、先生の採用に当たっては、英語の最低限の資格などあるのかどうか教えていただきたい。</p>
戸田学校教育課長	<p>全員受けることで、指導の改善につなげたいというのが一番の狙いになります。小学校に英語の授業が初めて導入されたわけですが、英語のできる教員をという御指摘もあるんですが、教員は大学を出ていますので、小学生が使う英語は使えるはずなんです。ところが、教えられるかというのはまた別になるんです。英語を教えることに不安を抱いている小学校の教員にとって、自分の指導が本当に有効か、どこまで子どもたちが正しく到達しているのか、客観的な指標がもちづらい。そこでGTECのような、4技能を客観的な指標として計れるものを導入することによって、先生たちが自信をもって指導につなぐことができるのではないかということで導入するわけなんです。タブレットを使っての試験なので、天童市の規模で全員が受験できるのかという問題がありますので、31年度については試行ということになっています。</p>
本田委員	<p>子どもたちの学力をアップさせるには、指導がどうできるかという問題が一番大きいでしょうから、指導に使えるというところがGTECのいいところだということであれば大賛成です。</p> <p>大学のカリキュラムに英語は入っているのですか。</p>

戸田学校教育課長	<p>教養という部分で英語が必修になっていると思います。</p>
村山委員	<p>英語の授業はありました。英語以外のいろんな言語から選ばなければならないというのも私のときはありました。</p>
本田委員	<p>先日テレビを見ていたら、インドネシア、台湾、中国、フィリピンなど6、7か国の女の子たちが集まって、インタビューしたりしゃべったりしていました。いろんな国の人が集まっているので、世界の人が見ても英語でしゃべらないとわからないわけです。他の国の人には当たり前片言でも英語で意見を言っているのに、日本の子は誰一人しゃべれなかった。今の世界の情勢というのは、英語がしゃべれて当たり前。どうすれば英語に入っていけるのだろうということと、教え方に関わってくるだろうと思って意見を述べました。</p>
戸田学校教育課長	<p>中学校の英語の授業も変わりまして、オールイングリッシュということで、中学校卒業段階で、使える英語に近い形にしたいという目標が定められて、英語も変わろうとしていますので、それを補強する施策としてGTECなどもこれから考えていきたいと思っています。</p>
井上委員	<p>英語は学んできたけれどいかに教えるかということが先生方の課題だと思います。先日ニュースを見ていたら、文科省の方では小学校でも教科担任制を取り入れたいと考えているという報道がありました。天童市の場合は英語については教科担任制をとっているのでしょうか。</p>
戸田学校教育課長	<p>外国語活動ということで導入されたときに、担任が教えるということでやっていました。今回英語が導入されたのですが、英語の免許を持っている教員が非常に少なく、外国語活動の授業の流れで担任がということになっております。今後は教科担任制になっていくのではないかと思います。現状では担任が行っているということになります。</p>
本田委員	<p>外国では日本のように1人が全教科を教えるというのは信じられないそうですね。どこの国でも教科担任がいると。</p>

山本市長	<p>今日のニュースで、どこかの市の働き方改革の中で、小学校で専門家の先生が教えるとか、先生は授業の準備に時間がかかるということで、マニュアルが作ってあってそこから引き出して教えられるというのをやっていました。全国から先生がその市に視察に行っているそうですよ。子どもと向き合える時間が多くなったという先生のお話でした。</p> <p>ほかにございますか。</p>
村山委員	<p>私は6年生になる娘がいるので、中学校の部活の話を周りでもしています。社会文化部という運動部以外の部活をひとまとめにしている部活があると聞いたのですが、私たちのところは美術部とかパソコン部とか分かれていて指導してもらっていました。一つにまとめたというのは、やはり人数的なことなのでしょうか。</p>
戸田学校教育課長	<p>総合文化部という名前だと思います。一番大きな理由は人数的なところですね。美術部を開いても部員が1人しかいない、教員の数があっていないということもありまして。ほかにも、例えばサッカーの外部のクラブに入っている子どもは選手登録の関係でサッカー部に入れない。しかし、必ず部活動に入らなければいけないというきまりの学校の場合に、総合文化部とか総合運動部に籍だけおいてということもあります。いろいろな理由の子どもの受け皿としてあるということです。</p>
村山委員	<p>私は運動が大好きなんですけど、勝ち負けを決めるのはあまり性に合わなくて、運動はした方がいいと思うのですが、体作り、友達作りだけを目的とした部活があっても今の時代はいいのかなと考えていたところでした。</p> <p>また、地域の行事に参加しやすいように部活動の方で考えていただけるということで、山口地区は駅伝があるのでとても助かっています。</p>
相澤教育長	<p>考えていかなければならないこととして、多様化ということがあります。例えば、先ほどスキーの話が出ましたが、私が校長のときも、スキーの合宿が北海道であるので1か月休</p>

	<p>ませてくださいという子どもがいましたが、学校は結構厳しいのです。私はそういうのを認めるべきだと思っています。つまり、部活の制限は全体としてはやっていくけれど、天童からオリンピック選手が生まれなくてもいいかというところではない。モンテで頑張っている選手もいればシニア野球で頑張っている人もいます。だけど自分たちでやってくれというのは学校としては不安なところがあるので、総合運動部とか総合文化部に入れて名前を把握して、その活動を認めていくというようなことが大事なんだと思います。多様化を認めていくこと、寛容であるべきだと思います。</p>
山本市長	<p>組織でもいろいろと工夫してやっているということなんでしょうね。他にございますか。</p>
本田委員	<p>先生方もいろいろな業務に従事して大変だと思います。教え方の共有というのはできないのかなと。こんな教え方が素晴らしいとかこんな教え方があるよというのを誰でも見られるようなものを作っていくと先生にとって役に立つのではないのでしょうか。そういうことはできないのでしょうか。</p>
戸田学校教育課長	<p>大事な提案だと思います。学校の授業で扱う学習内容については、例えば算数・数学でいえば計算スキルはマニュアルで教えることができる部分がたくさんあるのですが、それ以外の概念的なものや思考的なことを教える際には、目の前の子どもに合わせた指導法やこれまで積み上げてきたものが次の授業に繋がります。一概にこうすれば点が取れるということだけを目指しているわけではないものですから、今日の授業で子どもたちがこう考えていたのでこうなっていくんじゃないかなということを考えながら授業づくりをするものですから、先生方にとっては時間がかかってしまいます。本田委員が言ったように前の年度で使っていた資料が使えないわけではなく、すべてを作るということではないので、去年のものを使いながらやっているところではあります。子どもと向き合う時間を今以上に作りたいというのが働き方改革の一番の目的ですので、子どもと向き合う時間を増やしつつ、授業の準備にどれだけ効率的に取り組めるかということについては、学校教育課としても学校と一緒に考えていきたいと思</p>

山本市長	<p>ます。</p> <p>他にございますか。</p> <p>(3) その他</p>
山本市長	<p>それでは、「その他」について、なにかございますか。</p>
事務局	<p>(天童市教育大綱の策定について説明)</p>
山本市長	<p>他にございますか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>4 閉会</p>